

# 英語の授業で〈生かすこと〉ができる英語文学を考える

## 外国語（英語）コア・カリキュラムを背景に

高橋 和子

### はじめに

2019年度から開始した「外国語（英語）コア・カリキュラム」は、小学校教員養成課程の「外国語に関する専門的事項」に「児童文学」を、中・高等学校教員養成課程の「英語科に関する専門的事項」に「英語文学」を含めている。加えて、教職課程における英語文学に関する学びの成果は小中高の英語授業に〈生かすこと〉が求められている。一方、教員養成課程において英語文学をどのように扱えば英語授業に〈生かすこと〉ができるのかは、各授業担当者に委ねられている。本稿では、英語文学を英語の授業で〈生かすこと〉の具体化を試みることを通して、英語文学関連の担当者が、今後どのような授業展開を期待されていくのかを検討したい。

### 1. 新学習指導要領と「外国語（英語）コア・カリキュラム」に基づいた新たな教育制度

2020年4月、小学校で新学習指導要領が完全実施された。2021年度は中学校で、2022年度は高等学校でそれぞれ新しい学習指導要領に基づいた教育が本格的に始まる。小中高で新たな英語教育が始まるとともに、大学教員養成課程でも大きな改革が行われた。2015年、文部科学省は「英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業」を東京学芸大学に委託、コア・カリキュラム（試案）を経て、2017年に最終報告書が提出された（東京学芸大学, 2016; 東京学芸大学, 2017）。2019年度から再課程認定後の新カリキュラムが開始、これに伴って各大学では、「外国語（英語）コア・カリキュラム」に基づいた教育が始まった。

### 2. 「外国語（英語）コア・カリキュラム」における「英語文学」

中・高等学校教員養成課程「外国語（英語）コア・カリキュラム」では、「英語科に関する専門的事項」が設定されている。同事項には「英語コミュニケーション」、「英語学」、「英語文学」、「異文化理解」が含まれる。コア・カリキュラム（試案）の段階では、「英語コミュニケーション」、「英語学」、「異文化理解・文学」とする案が出たが（東京学芸大学, 2016）、最終的には文学関連の科目が残り、幅広く英語文学を扱うことになった。

「英語文学」で注目したい点は、全体目標に「中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる」という文言が加わったことである（東京学芸大学, 2017: 115）。その趣旨は、文学作品そのものを学ぶというよりも、文学を通して英語表現や文化を学び、その学びの成果を中高の英語科教育に〈生かす〉ことである。授業に〈生かす〉方針は、小学校教員養成課程「外国語（英語）コア・カリキュラム」にもあてはまる。

ここで留意したい点は、英語文学に関する学びを小中高の英語授業に〈生かすこと〉の意義を、十分に検討することであろう。性急な判断は、小中高の英語授業で〈役立つようには見えない〉内容を安易に切り捨て、英語文学に含まれる豊かな文化・社会・歴史的な背景をそぎ落とし、英語教員を目指す者の視野を狭めかねない。小中高の英語教育が目指す「コミュニケーション能力」育成を支える土台を改めて見直し、授業に〈生かすこと〉の意義を慎重に問い直したい。

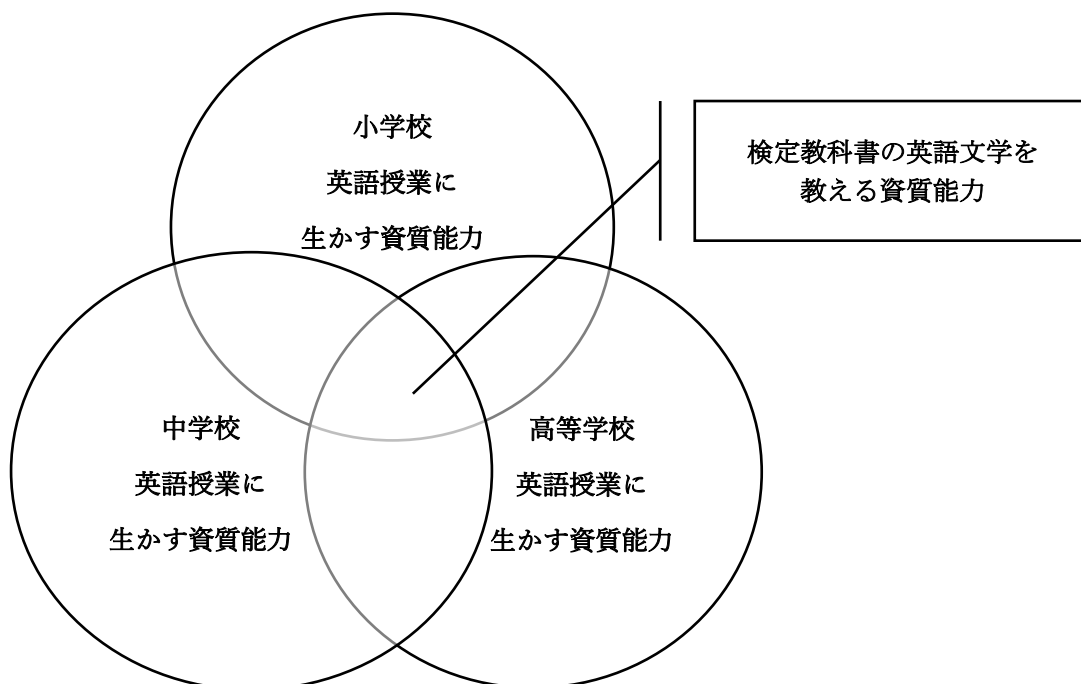
### 3. 「英語文学」関連授業とその課題

教員養成課程において英語文学をどのように扱えば、小中高の英語授業に〈生かすこと〉ができるのか。コア・カリキュラムで大まかな方針が示された一方で、実際の授業設計は各担当者に委ねられている。2020年度に各大学で開講されている英語文学関連の授業シラバスを見ると、英米の良く知られた文学作品を網羅する授業がある一方で、1つの作品をじっくり読む授業もある。講義系や演習系の科目もある。どの授業も授業担当者の専門領域を反映し、工夫を凝らした授業計画になっている。一方、これら授業の受講者は、中学校教員又は高等学校教員を目指す人、小学校免許も取得して小学校教員になる人もいる。授業担当者が小中高の英語授業に〈生かす〉ことを願っても、大学での学びが実際に生かされるかは未知数である。

### 4. バックワード・デザイン（Backward Design）を取り入れた「英語文学」のカリキュラム

上記のような「英語文学」が抱える課題を解決するためには、まず小中高の英語授業に〈生かす〉ことの意味を具体化することが必要であろう。具体化への試みとして、バックワード・デザインで「英語文学」のカリキュラム設計を行ったらどうか（Wiggins & McTighe, 2005）。この考え方は、教育成果を明確にした上で（Step 1）、指導前に評価方法を構想し（Step 2）、指導方法等を組み立てる（Step 3）カリキュラム設計である。バックワード・デザインは教科を超えて注目されている指導計画であり、「逆向き設計」と訳される場合もある（西岡, 2008）。Wiggins & McTighe（2005）は、母語教育をおもな対象としているが、第二言語習得のためのカリキュラム設計においても十分援用可能である。

小中高の英語授業は、大多数が検定教科書を使用する。これら授業に＜生かす＞ためには、教科書に掲載されている英語文学を効果的に用いる方策を学ぶことが必要であろう。一方、**検定教科書の英語文学を教える資質能力＝「英語文学」の授業で養う資質能力**と捉えると、英語の授業で＜役立ちそうには見えない＞内容を排除する発想に陥ってしまう。むしろ「英語文学」の望ましいカリキュラム像は、次のようではないか。



図：小中高の英語授業に＜生かす＞ための「英語文学」イメージ（発表者作成）

注：受講者が小中高の複数免許を取得することを想定。現時点で小学校と高等学校のみに共通する点はないと考えられるが、全体のイメージを示すために上のように作図している。

今後の「英語文学」は、検定教科書の英語文学を教える資質能力を核にして、各校種の英語教員に求められる力を幅広く育成することが必要になるだろう。以下では図のカリキュラム像を実現するステップを示したい。

【Step 1 教育成果の検討】：1) 小中高の検定教科書分析→2) 各教科書の英語文学教材を効果的に活用するためのポイント抽出→3) 2)を核にして、各学校種の英語教員に求められる資質能力を検討→4) 3)とコア・カリキュラム・「英語文学」の全体目標・学習項目及び到達目標の擦り合わせ

【Step 2 評価方法の検討】：Step 1 で定めた教育成果を測定するための評価方法の検討

【Step 3 指導方法・活動内容等の検討】：英語文学の指導方法・言語活動の内容等を具体的に検討

#### おわりに

文学作品は「コミュニケーション能力育成」の対極にあるのではなく、作者と読者がコミュニケーションを図る双方向的な場であり、これを十分に活用すれば、学習者同士もコミュニケーションの輪を広げることができる。「英語文学」のあり方を地道に検討していくことを通して、未来の先生方の授業に＜生かす＞ことに近づくのではないだろうか。

#### 註

本稿は科学研究費（課題番号 20K00846・基盤研究（C）・「小・中・高の英語教育に生かすための教職課程における英語文学カリキュラム開発」研究代表者：高橋和子、研究分担者：伊藤摂子）による研究の一部である。

#### 引用文献

東京学芸大学（2016）『文部科学省委託事業「英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業」平成 27 年度報告書』 available at:

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~estudy/wp-content/uploads/2016/03/h27all.pdf> 2020 年 8 月 5 日入手。

東京学芸大学（2017）『文部科学省委託事業「英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業」平成 28 年度報告書』 available at: [http://www.u-gakugei.ac.jp/~estudy/28file/report28\\_all.pdf](http://www.u-gakugei.ac.jp/~estudy/28file/report28_all.pdf) 2020 年 8 月 5 日入手。

西岡加名恵編著（2008）『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』明治図書

Wiggins, Grant, and Jay McTighe（2005）*Understanding by Design*. Expanded 2<sup>nd</sup> edition. Upper Saddle River, New Jersey: Pearson Merrill Prentice Hall.